

第102回 全国大学獣医学関係代表者協議会議事録

日時：平成27年5月11日（月）14－16時

場所：東大農学部3号館 4階会議室

出席者（敬称略）

出席者（会長） 伊藤茂男
（副会長） 谷山弘行
（北海道大学） 稲葉 睦、大橋和彦、滝口満喜、永野昌志
（帯広畜産大学） 倉園久生、古岡秀文、猪熊 壽
（岩手大学） 御領政信、板垣 匡、山本欣郎
（東京大学） 尾崎 博、西村亮平、中山裕之、久和 茂、桑原正貴、
杉浦勝明
（東京農工大学） 渡辺 元、渋谷 淳、竹原一明、田中知己、福島隆治
（岐阜大学） 北川 均、杉山 誠、鈴木正嗣
（鳥取大学） 澁谷 泉、日笠喜朗、村瀬敏之
（山口大学） 木曾康郎、佐藤晃一
（宮崎大学） 片本 宏、大澤健司、野中成晃
（鹿児島大学） 望月雅美、宮本 篤、川崎安亮
（大阪府立大学） 稲葉俊夫、山手丈至、笹井和美、中村洋一、嶋田照雅
（酪農学園大学） 田村 豊、竹花一成、中出哲也、北澤多喜雄、山下和人、
遠藤大二
（北里大学） 高井伸二、宝達 勉、小山田敏文、佐藤久聡、上野俊治、
岡野昇三
（日本大学） 河野英一、杉谷博士、丸山総一、津曲茂久、森友忠昭、
北川勝人
（麻布大学） 浅利昌男、土屋 亮、村上 賢、山下 匡
（日本獣医生命科学大学） 池本卯典、河上栄一、藤田道郎、鷺巢月美、
左向敏紀、尼崎 肇、新井敏郎、高橋公正
（特別出席） 文部科学省 高等教育局専門教育課課長補佐 辻 直人、
科学・技術教育係 草田善之
農林水産省 動物衛生課家畜防疫対策室長 石川清康
公益財団法人大学基準協会大学評価・研究部 審査・評価系
主幹 橋本孝志、企画・調査研究系 山口 豪
（事務局） 東京大学：望月 学（事務局長）、堀 正敏（総務）
山口大学：佐藤晃一（広報）

以上 79 名

開催に先立ち、伊藤会長から本会議開催時期がNPO法人獣医学教育支援機構の設立手続き等で延期となり3月開催予定から本日開催となった旨、説明があった。それに引き続き、文部科

学省高等教育局専門教育課 課長補佐 辻直人氏による来賓の挨拶があった。

(1) 報告事項

1) 国公立大学獣医学協議会報告 (東大・尾崎)

a) 各大学の近況や共用試験の準備状況などについて報告された。

b) 続いて第三者評価についての議論を行った。具体的には、大学基準協会による獣医学教育評価検討委員会【中間まとめ】について、全国協議会稲葉 WG の答申内容がほとんど考慮されていないことを確認した上で、以下の討議がなされた。その際、受審料 (200~300 万円) の金額設定、「認証マーク」の付与 (適合認定) の是非、共同教育課程の評価への対応、評価の周期 (サイクル) の妥当性の 4 点を問題点とし、これらについて各大学からの様々な意見が寄せられ議論した。以下が要約である。

- ・現時点では、共同教育の評価が出来る体制になっていない。また、共同教育の成果、即ち卒業生が出てからでないと評価基準を確定できないであろうし、受審も出来ない。
 - ・現在、共同教育を実施している 8 大学の中で、4 大学が文科省の支援を受け、国際認証 (EAEVE) を受けようとしている。国際認証と今回の基準協会の評価の関係を整理しておく必要があり、今後議論を深める。
 - ・文科省が進めようとしているガバナンス改革の影響で、学長裁量経費の割合が増え、部局予算が削減されている。財政的にもますます厳しさが増す状況で、受審料の 200-300 万円を賄うことは極めて難しく (大多数の大学が表明)、再考を望む。
 - ・第三者評価実施のための環境が整うまで、これまで私立大学がやり、国公立がやってこなかった「自己点検・自己評価・相互評価」を実施し、その準備を始めてはどうか。その過程で得られた成果を基準協会の評価に反映させることも出来る。
- ① なお、大学基準協会に新たに設置された獣医学教育試行評価委員会の委員長である東大・中山教授から、以下のような報告がなされた。
- ・東大と日獣医大の 2 大学に、現在の評価法による評価を試行してもらい、その結果を考慮しながら、最終案を提示したい。今の評価系は共同教育課程を実施している大学を評価できる内容になっていない事実については認識しており、その評価法についても検討を行う予定。
- c) 次期会長に北海道大学・稲葉睦教授が選出された。副会長については、次回協議会までに稲葉会長が指名する予定。

2) 私立獣医科大学協会協議会報告 (日獣医大・新井)

a) 私立獣医科大学協会協議会を一般社団法人化する (6月予定)

会長：池本 (日獣医大)

事務局を日獣医大に設置し、事務局長には新井 (日獣医大) が着任予定

b) 私立獣医科大学協会協議会の総会開催 (日本大学幹事、箱根湯本 6.19)

- c) 第8次相互評価の実施計画：今回は臨床教育を相互評価
- d) 地方公務員獣医師の不足を補う事業の実施
- e) 法人化の手続き完了後、全国協議会副会長を選出予定

(2) 討議事項

- 1) 第101回全国大学獣医学関係代表者協議会議事録が承認された。
- 2) NPO法人・獣医学教育支援機構の設立について（東大・杉浦、鳥取大・澁谷）
 - a) 名称vetESOのコンセプトの説明、ロゴマークの説明と使用にあたっての規範について説明がなされ、承認された。
 - b) 日本畜産技術協会（綿羊会館 湯島）の1室をH27.2月から貸借
 - c) 中村利子さんを事務職員として雇用
 - d) NPO法人の4月22日現在までの収支について説明された。
 - e) vetESOの定款について説明がなされた。
 - f) H29年度以降が正式運営になるため、H29年度以降の予算案について説明された。
 - ・ H28年度までは各団体からの寄附金と大学からの運営費（獣医学教育支援機構運営に要する経費として各大学に請求）が主たる収入源
 - ・ H29年度以降は受験料と各大学からの運営経費が主たる収入源
 - ・ 正式運営時の年間運営費は3000万円を越える額面になると試算（受験料は25000円で試算）
 - ・ なお、正式運営までの暫定的な雇用人事、予算などについても、予めその内容を公表し承認を受けたのちに執行して欲しいとの要望があった。これを受けて、委員会で検討しているH27年度、H28年度の予算案ならびに人事案についての説明があった。
 - ・ 全国協議会の年会費を5万円から10万円に値上げし、うち、5万円を教育支援機構の運営資金に充てるとの提案があり承認された。
 - ・ 各大学から徴集する予定の機構運営経費の使用目的について整理し、各大学（本部）へ適切な説明ができるようにしてほしいとの要望があった。
 - ・ 大学によっては、共用試験実施年度がH30年度にずれ込む大学があるが、運営経費の支払いについては支援機構立ち上げ年度（今年度）から支払となることが確認された。
- 3) 分野別第三者評価について
 - a) 大学基準協会に設置されている獣医学教育評価検討委員会での経過説明が中山委員長からなされた。
 - ・ 全国協議会からの稲葉WG答申を受けて、その内容について加味した中間まとめ案が基準協会での委員会にて承認され、各大学へ配信した。
 - ・ 一端同評価委員会は解散され、新たに獣医学評価試行評価委員会が4月に設置され、理事会にて5月に承認される予定。
- 4) 共用試験委員会からの報告

- a) 科研基盤Aが終了。その後のH27-H28にかけての共用試験試行等にかかる経費については、各大学からの拠出金（機構運営経費）によって実施することについては、すでに全国協議会にて全大学から承認を得ていることが、改めて再確認された。
- b) 現在の共用試験委員会はNPO法人設立とともに発展的解散となり、そのままNPO法人下に共用試験実施委員会が設置予定である。
- c) 14大学でのvetCBTトライアルについて
- ・受験中に通信の切断が多発するトラブルが生じたが、ソフト面の修正でほぼ解消済み。帯畜大と北大で6月に予定されているトライアルで確認予定である。
- d) vetCBT試験問題作成状況について
- ・トライアル試験の結果を検証しつつ問題の精査を進めて行く。
 - ・これまでのトライアル試験の正答率からみて、問題が難しすぎる傾向がある。
- e) vetOSCEについて
- ・シュミレーター、医療面接、事前実習、評価者養成、実技試験などについてと、トライアル実施状況について説明がなされた。
- f) 共用試験広報委員会からの報告
- ・HP Webサイトマップについての説明がなされた。
 - ・HPに年間スケジュールを提示・公開する予定。
 - ・獣医学教育支援機構HPについての説明。
 - ・CBT体験受験模擬テストコーナー設置について説明。
 - ・『H25年度薬学共用試験実施に向けて』を参考に獣医用の解説書を作成予定。
- 5) 共通テキスト編集委員会からの報告
- ・31科目/51科目中のコアカリテキストが刊行された。
 - ・委員長が橋本（帯畜大）から昆（北大）に交替した。
- 6) コアカリキュラム検討委員会からの報告
- ・現在のコアカリ到達目標数は多すぎることから、大改訂が必要ではあるが、共用試験実施に向けて今の段階での大改訂は混乱を招く可能性があり、慎重に討議を重ねていく。
 - ・国家試験出題基準が今年度改定されるため、コアカリ改定もこれを反映させて行く。
- 7) 動物診療施設小委員会からの報告
- ・獣医学会が年1回の開催になったため、今回開催なし。
- 8) 全国共同実習事業報告について
- ・昨年度から新たにスタートしたVPCampについてのH26年度実施報告とH27年度実施計画について説明がなされた。
- 9) 広報委員会より
- ・全国共同実習事業など新旧の事業についても相互にリンクを貼ることにした。
- 10) 協議会規約の改正について
- a) 資料6に基づき、各大学の負担金を5万円から10万円として総額160万円の収入予算とする。NPO法人獣医学教育支援機構へ半額の80万円を支援し、協議会の資料作成など事務作業を負担してもらうことが承認された。

b) 会計報告

会計年度を9月1日～8月31日にするか否かについて。NPO法人の定款は4月～3月になっており一致しないため、この件については会長に一任することとし、次回の協議会にて決定する。収入の部に書籍印税（緑書房、学窓社、朝倉書店、近代出版など）が掲載されているが、これについては法人立ち上げ後は教育支援機構の収入とする。

1 1) 次期会長の選任

伊藤会長から東京大学の尾崎博教授を会長に推挙し、これが承認された。副会長については6月以降に私立獣医科大学協会協議会から選出予定。最後に、伊藤会長のお考えとして、会長、副会長選出の在り方に付いても検討をする必要があるとの発言がなされた。

1 2) 次期開催予定

H27年9月6日 北里大学獣医学部（十和田キャンパス）にて開催予定

（追加）

農林水産省 消費安全局 家畜防疫対策室 室長（石川）より、日本近隣国（韓国、台湾）での口蹄疫と高病原性鳥インフルエンザの発症状況について説明がなされ、両疾患に関する個人個人の防疫意識についての注意喚起がなされた。